

10月を中旬を迎えました。

毎日に秋の深まりを感じて来ます。10日ほど前から、朝の園庭では雪虫がちらちらと舞いはじめていて、初雪の降るようすを思い浮かべて心を暗くしてしましますが、子どもたちは喜びの雪化粧になるでしょう。子どもたちは秋の深まりに負けず一日一日を楽しみます。

■ 10月に入って、円山動物園が再開されました。

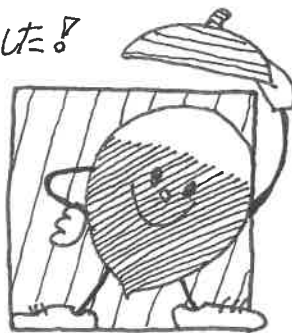
さっそく秋の円山動物園へ出かけ、久しぶりに動物たちのようすを観てきました。秋の深まりも見えました。

■ 朝のバスから降りてくるつぼみのおとどち<sup>おんぼ</sup>を教室まで引率しておりますが、これは静かに歩いたり、泣く子の手を引いたりですが、今では走り出したり置いてある遊具に一目散の子がいて、「走らないで！ STOP!」と声を出しながら追いかけても、全然追いつきません。

年長児たちはクッキー作りにはげました！

■ つぼみさんたちも久しぶりに秋の真駒内公園を散策して来ました。

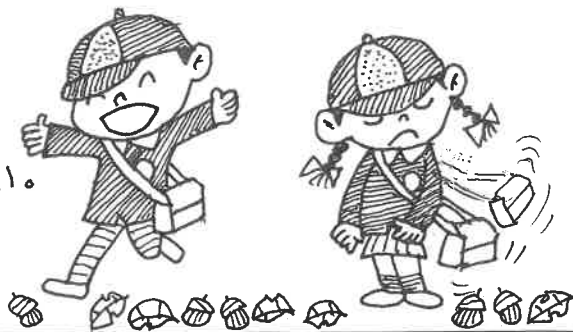
長い距離をみんなが秋を楽しみながら歩いてきました。がんばりました。



かつては若い頃、真駒内公園の広い芝生や茂みの中を子どもたちの先頭になって走っていた頃とくらべて、体力の衰えをジジミと感じます。あの頃を思い出しながら、元気印の子どもたちの毎日です。

■ 本日15日より入園願書の配布がはじまりました。明日16日はひよこらぶです。

■ カバンのベルトの長さを調整してあげてください。不自由さを感じているのは我が子です。



(心の育ちシリーズ)

# 大切な<sup>ひと</sup>独り言<sup>ごと</sup> - ママの安心子育てより -

こどもが何かをしている時、ブツブツと独り言を言うこと。「うちの子大丈夫かしら？」と心配するママも居るかも知れません。どうぞご安心ください。2歳くらいになると、こんな風に何かをつぶやくことがあります。そして、おとどちと遊んでいても、それぞれが独り言を言って会話にならないというのさよくあることです。独り言を言うのは、幼児初期から中期にかけてで、こどもが「悩んでいる時」「迷っている時」によく見られます。

ここでクヨンでお絵かき中の2歳の男の子のようすをちょっとのぞいてみましょう。「ここにまっすぐ道をかいて、車は、ここ」「あれ？赤がいいのに、クヨン無いや」「じゃあ黄色にしよう」

この時期のこどもがなぜ考えていることを声に出すのかというと、そのほうが考えがまとまるからです。

こどもは自分で自分に質問し、答えを出しているのです。それが小学校に上がって頭だけで考えられるようになると、独り言は言わなくなります。つまり独り言とは「思考すること」が出来ようになる迄のプロセスなのです。この内なる言葉が育たなければ、想像力や記憶力も出来ません。

入学前に文字を覚えることが当たり前になってますが、字を覚えた時、「あ」ならあと言っているがら書く子がいます。これは言葉が手の運動をバックアップしてくれているのです。

独り言は、3歳以降、集団生活をするようになるととっと増えます。この時期「自分の世界」にいるお子さんを、あたたかく見守ってあげようとしてください。心の中では言葉がブクブク育っているのです。

このおに言っているのはお茶の水女子大名誉教授でありますうちだのふこ先生です。NHKお母さんといっしょの編成委員。